

# プロフェッショナル仕事図鑑

## 第5巻 弁護士

入場無料  
先着40名  
(当日受付)

いろいろな職業の人にお仕事の話をしていただく講座「仕事図鑑」。  
これまでに4回開催し、好評をいただきました。

第5回は名古屋で現在活動中の若手女性弁護士が、日ごろの活動状況をふまえ、  
法律の専門家「弁護士」の仕事について紹介します。

講師 よしえ きみこ  
**吉江 仁子 (名古屋E & J 法律事務所)**

2006年に弁護士登録し、一般民事を専門として手がけています。  
サラリーマン家庭で育った、5人兄弟の4番目です。  
根っからの「庶民」です。  
庶民弁護士として、民事・刑事を問わず、庶民の暮らしの悩みを  
少しでも解決するお手伝いをしたいと思っています。  
一期一会の精神で、一つ一つの事件に全力で取り組みます



所属事務所ホームページより

**日時 平成20年12月20日(土)14:00~15:00**

**場所 愛知県図書館 1階AVホール**



問い合わせ先

〒460-0001 名古屋市中区三の丸 1-9 3  
愛知県図書館 サービス課 社会・自然・国際グループ  
TEL 052-212-2323 FAX 052-212-3674  
<http://www.aichi-pref-library.jp/>

交通のご案内

地下鉄鶴舞線・桜通線「丸の内」駅下車 8番出口から北へ徒歩5分  
市バス幹名駅1系統・名駅14系統「愛知県図書館」下車徒歩3分

おとうさんのためのニューズペーパー

# Well Papas

ウェルぱぱす 2008年9月号 VOL.126

毎月第4水曜日発行



■ 所属事務所 / 名古屋E&J法律事務所 名古屋市中村区椿町15-19 大和生命名古屋ビル2階 TEL052-459-1750  
撮影 / 牧 穂人



## 女性を護る砦に

まも  
よしえ・きみこ  
弁護士・吉江 仁子さん

### 家庭に対する責任から 逃げている男性が多い

「離婚の調停などを通して強く感じるのは、家庭や子供に対する責任から逃げていく男性が多いことですね。自分が夫や父親であるという自覚が希薄なんです」

笑顔でこう話すのは弁護士の吉江仁子さん。兵庫県出身。大学卒業後、OLや法律事務所勤務などを経て司法試験の勉強に取り組み、2006年に弁護士登録した。民事・刑事を問わず扱うが、離婚や多重債務、交通事故など、市民生活にかかわる事件の占める割合が多い。

「妻に対する夫のモラルハラスメント（言葉や態度による暴力）は多いですね。妻や妻の家族に対し、耳を疑うような言葉で平然と罵倒（ばとう）するんです。また、不貞行為に対する認識も低い。たとえ「回きりであっても、裁判になった場合の慰謝料は決して少なくありません」

「『家族に縛られたくない。』あるいは、『家庭の居心地が悪い。』などと言って、浮気をする自分を正当化したり、そのまま家を出てしまう男性もいます。結婚というのは、シンドイことも含めて夫婦で家庭を一緒に築いていくこと。残された女性や子供の今後のことなどには、まったく思いが及ばないようなのです」

ふつうのサラリーマン家庭で育った5人兄弟の4番目。そのため常に庶民の目線でものを見るという。「庶民や女性など、弱い立場の人の支えになれば」と弁護士道を選んだ。

### 子供をまきこまない。 自分で決断する

「今、離婚を考えている方はなるべく子供をまきこまないよう配慮してあげてください。子供にとっては父親も母親も大切な存在。一方が他方の悪口を子供に言うことで、子供は大変傷つきます。子供をまきこまず、夫婦の問題は夫婦で力をつけてほしいですね。それと、離婚は人生の重大事。自分自身の感じ方や判断を大事にして、決断してください。いろいろな人のアドバイスを受けることは大事ですが、最後は自分の判断で決めてほしいですね」

「すでに離婚を決意している人には、証拠を集めることを勧めます。暴力が原因なら診断書を取ることで。不貞なら、その証拠。きっかけがあつて不貞を疑うのですから、何かあるはずですよ。簡単で、すぐにできるのがメモをとること。『いつ何を言われた』『何をされた』かを日記のように記録するんです。これでも十分、証拠になります」

男性にとっては耳の痛い話が続くが、「弱い立場の女性の手助けがしたいだけです」ときっぱり。その口調はやはり弁護士のものだった。

## index

- 2 ほろ酔い人生劇場
- 3 いま学校はワヤだがや / Dr.ボカの何でも来い相談室 ほか
- 4 5 表紙連動「アナタが妻から三行半をつきつけられる時」
- 6 ドラゴンズ辛口通信簿 / プレゼント
- 7 映画八何デモ知ッテイル ほか
- 8 おばさんの気持ち

中日新聞折込『Well Papas』2008年9月号より転載  
発行元・(株)中日メディアプレーン許諾済